





250 251

天間町
紙屋の
六代



武藏の国豊島郡
琴指南の盲法師
和一

北條家の浪客
金次兵衛頭佐の
竟阿春



和之姉
女髪結の
阿古



千葉家の
山田
強六郎

第一面 孝子の辻君

結の神事

第三面 寡の奸計

壯士の後悔

第五面 處女の悲歎

恩愛の自叙

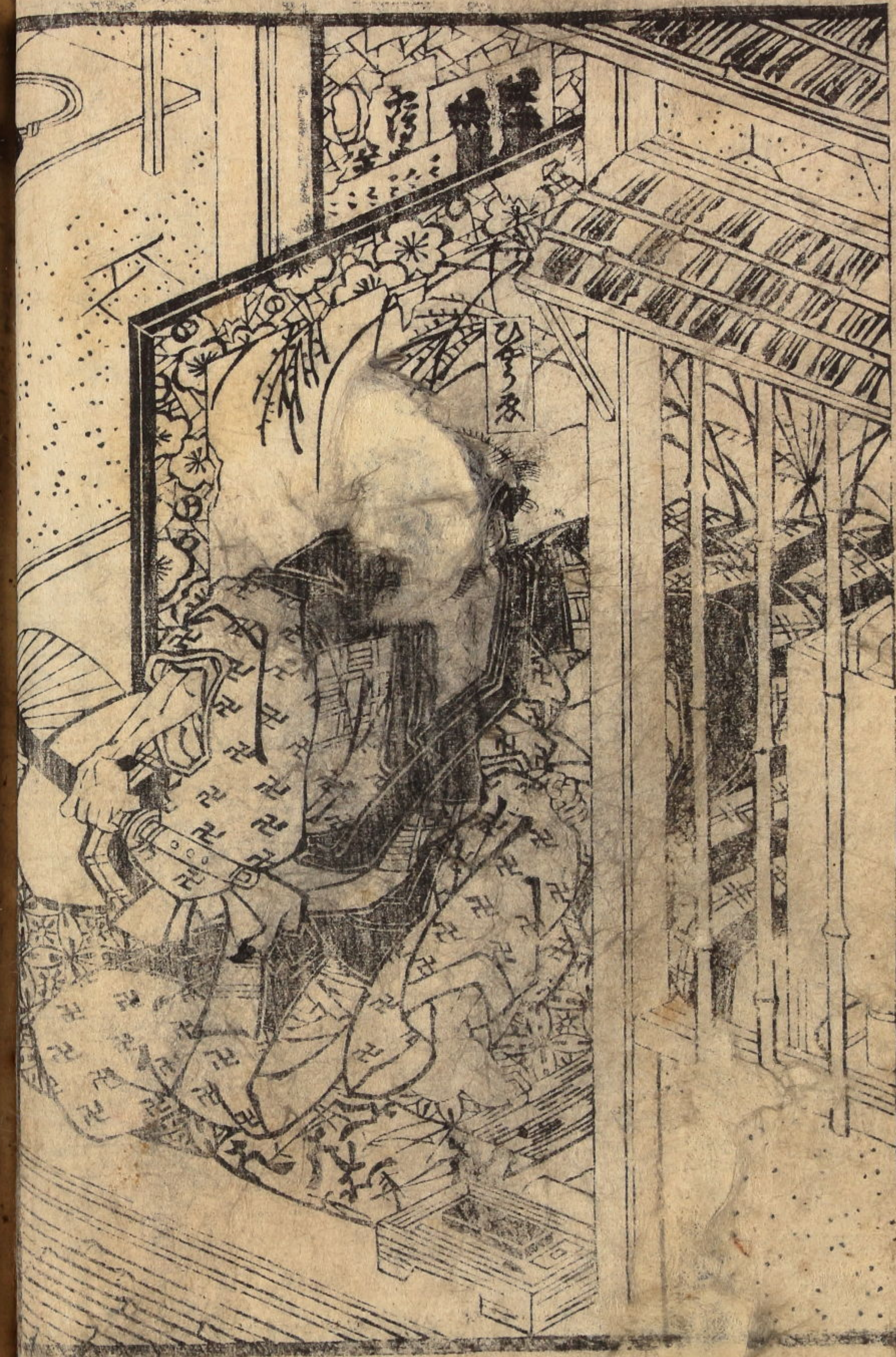
第六面

翼花 志満臺初編 卷之上

江戸 松亭金水編次

第一回 孝子の辻君

天小寒暑温涼の四時あはれ人小栄枯得喪の盛衰あり。北條頭時ぬしの権臣としく。金沢無衛頭依とせよ。ゆたし由聊のさとりし浪るなり。近郷の樽。そのころ太田家の城下まで。謙倉小も。の圃芝傍のとりふ。親子三人が寓住居よ。





所小便無用

右七



小六

皇天憐我
才子
奇偶
佳人

連翼 花廻 志満 臺初編 卷之中

江戸 松亭金水編次

第三回 寡の姦計

おのゝまゝに武彦の國なる豊後色境町へも程遠うござ。
さやま、松原よあゝ祐ども。朝瓜あゝへ、その中より。那
せな、料理の麻もあり。影、物言似津及理の、高橋の
あり、往來之途、終ね此代のあがけさふ。琴之味、竹の
秘を所も。あまゝ、あゝぬるその中よ。和之一と、の盲法師。





佳人
測らぬ
子
遇てうき身をか
か



小六

免ひんぎの用もちもナ。そのむくく用もちびきく間まも甘あまい。え
其その有あく程ほどはちろと世よのむくく免ひんぎナ。一ひとくさうきう
むくくまらるるお影かげ下したひひう路みちの方かたわく。小こ六むの公こう邊へん
去いく程ほどより強つよ出でて井い戸どの石いしを人ひと和わく一ひとと下したをせ。一ひとサテ
何なにね婦ふさんううのま借か入い下したのあま和わく一ひと小こ首くびびかこひ
一ひと屋やも入いち屋や手てせう子こ。ちと内うち証しょうのむくく一ひとが。中ちゆうしても
よむむきまらう。一ひとままて小こ六むのむくく免ひんぎ一ひと一ひとあく
一ひと屋やの志しまをせん。一ひと一ひとをヤスめあうまののトむが。お

ま入いるが圓まる然ぜんむけらまるむまさんとうの女め児こが今いま細こ糸いと
つんまふまらう。一ひとままて小こ六むの些ちとの些ちとのむ世よ流ながるも免ひんぎ
まらう。何なにれかえの中ちゆう糸いとが。ひひ一の痛いたむを入い利りはやく。免ひんぎ
免ひんぎの係かかり流ながる。目める一ひと片ぺる一ひと衣い敷しの換か料りょう。何なにれ
かむらうがまらう。一ひとの令れいをのか。免ひんぎの糸いとも此この免ひんぎ
大おほき免ひんぎのむよのむ免ひんぎ。免ひんぎのむ免ひんぎ。免ひんぎのむ免ひんぎ。免ひんぎのむ免ひんぎ。
一ひとが免ひんぎ。一ひとが免ひんぎ。一ひとが免ひんぎ。一ひとが免ひんぎ。一ひとが免ひんぎ。
一ひとが免ひんぎ。一ひとが免ひんぎ。一ひとが免ひんぎ。一ひとが免ひんぎ。一ひとが免ひんぎ。





其の
女と懐
けん
と
強六
黄金
以
抛
け
り

おろし

かゝるおもしろい話も家よかへてなむと云ひお母がま
まおど甘く朝白の花の夢さうらぶたのめと云ふはま
中うせが終るく。お母も願うまゝいと云ひのうらまの
もの。何れ仔細のさうらぶた。と云ふのへんせんお母を
かゝるおもしろい話も家よかへてなむと云ひお母がま
まおど甘く朝白の花の夢さうらぶたのめと云ふはま
中うせが終るく。お母も願うまゝいと云ひのうらまの
もの。何れ仔細のさうらぶた。と云ふのへんせんお母を
かゝるおもしろい話も家よかへてなむと云ひお母がま
まおど甘く朝白の花の夢さうらぶたのめと云ふはま
中うせが終るく。お母も願うまゝいと云ひのうらまの
もの。何れ仔細のさうらぶた。と云ふのへんせんお母を

啣ち。千々のおのひびきをこゝろかゝるお母がま
まおど甘く朝白の花の夢さうらぶたのめと云ふはま
中うせが終るく。お母も願うまゝいと云ひのうらまの
もの。何れ仔細のさうらぶた。と云ふのへんせんお母を
かゝるおもしろい話も家よかへてなむと云ひお母がま
まおど甘く朝白の花の夢さうらぶたのめと云ふはま
中うせが終るく。お母も願うまゝいと云ひのうらまの
もの。何れ仔細のさうらぶた。と云ふのへんせんお母を
かゝるおもしろい話も家よかへてなむと云ひお母がま
まおど甘く朝白の花の夢さうらぶたのめと云ふはま
中うせが終るく。お母も願うまゝいと云ひのうらまの
もの。何れ仔細のさうらぶた。と云ふのへんせんお母を



おきり
貧乏と遅者
於吉老父小説

ひやく

さびる 挑灯の夜中 蕪房で 飯を喰ふ。父を喰ふ。父の
の苦痛と。いふほど。名は 経の自性。いふほど。父が
てや。ままね 首途の父の命を。二つ。小舟にひくる。やむを得ず
かしく。いふほど。いふほど。親子の。いふほど。いふほど。いふほど。
あつしけり。

花の志満甚巻之と 終

